



福岡県医第 438 号 (地)
令和 6 年 5 月 7 日

各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 蓮澤 浩明
(公印省略)

ダニ媒介感染症の予防啓発及び対策の推進について

今般、標記の件について、別添のとおり厚生労働省より福岡県保健医療介護部を通じて周知依頼がありました。

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) や日本紅斑熱を含むダニ媒介感染症については、発生する地域の広がりとともに継続して患者の発生が報告されています。

SFTS については、平成 25 年 1 月に国内で海外渡航歴のない方が罹患していたことが初めて報告されて以降、西日本からの報告が相次いでおり、県内でも平成 27 年 5 月 19 日に、SFTS の患者が初めて確認されて以降、毎年報告があり、令和 6 年 3 月までに報告された 28 例のうち 7 例の死亡が確認されているところです。

また、令和 6 年 3 月、国内で初めてとなる SFTS ウイルスのヒトーヒト感染 (患者から医療従事者への感染) 事例が確認されたところです。

マダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になり、シカやイノシシなどの野生動物が生息する環境のほか、民家の裏山や裏庭、畑などにも生息していることから、特に屋外でのキャンプやハイキング、農作業や草刈り、山中での作業 (山菜採りや狩猟等) は、ダニに咬まれるリスクが高まります。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了解いただくとともに、SFTS 患者の診療における感染対策の徹底について貴会会員への周知方よろしくお願い申し上げます。

小郡三井医師会より

感染症対策担当理事 橋本朋也
会長 島田昇二郎

公印省略

6 疾病第 3 8 3 号
令和 6 年 4 月 1 9 日

公益社団法人福岡県医師会長
公益社団法人福岡県病院協会
一般社団法人福岡県私設病院協会
公益社団法人全国自治体病院協議会福岡県支部長
一般社団法人福岡県精神科病院協会

殿

福岡県保健医療介護部長
(がん感染症疾病対策課感染症対策係)

ダニ媒介感染症の予防啓発及び対策の推進について

本県の保健医療行政の推進につきましては、平素から格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) や日本紅斑熱を含むダニ媒介感染症については、発生する地域の広がりとともに継続して患者の発生が報告されています。

SFTS については、平成 25 年 1 月に国内で海外渡航歴のない方が罹患していたことが初めて報告されて以降、西日本からの報告が相次いでおり、県内でも平成 27 年 5 月 19 日に、SFTS の患者が初めて確認されて以降、毎年報告があり、令和 6 年 3 月までに 28 例の報告があり、うち 7 例の死亡が確認されているところです。

また、令和 6 年 3 月、国内で初めてとなる SFTS ウイルスのヒトーヒト感染（患者から医療従事者への感染）事例が確認されたところです。

マダニの多くは春から秋にかけて活動が活発になり、シカやイノシシなどの野生動物が生息する環境のほか、民家の裏山や裏庭、畑などにも生息していることから、特に屋外でのキャンプやハイキング、農作業や草刈り、山中での作業（山菜採りや狩猟等）は、ダニに咬まれるリスクが高まります。

つきましては、貴会会員に対し、SFTS 患者の診療における感染対策の徹底について周知をお願いいたします。

また、今後マダニの活動が活発化する季節になるため、貴会会員に対し、別添リーフレット等を用いた来院者に対するマダニ対策の啓発について依頼をお願いいたします。

－問合せ先－

福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課
感染症対策係 長藤

〒812-8577 福岡県福岡市博多区東公園 7－7

TEL : 092-643-3597 FAX : 092-643-3331

Email : nagafuji-n0428@pref.fukuoka.lg.jp

山や草むらで活動するときは、

マダニに注意しましょう

春から秋にかけての季節は、キャンプ、ハイキング、農作業など、

山や草むらで活動する機会が多くなりますが、マダニの活動も活発になります。

野山に生息するマダニに咬まれると、

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、ライム病

などの感染症にかかることがあります。

予防のポイント

下の4つのことを参考にして、ダニに咬まれないようにしましょう。

(これらの予防方法はツツガムシに咬まれて感染するつつが虫病の予防にも有効です。)

1. マダニの生息場所



マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



2. マダニから身を守る服装

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、ハイネックのシャツを着用しましょう。



半スボンやサンダル履きは不適当です！

ハイキングなどで山林に入る場合は、**スボンの裾**に靴下を被せましょう。

シャツの袖口は軍手や手袋の中に入れてみましょう。

シャツの裾はスボンの中に入れてみましょう。

農作業や草刈などでは**スボンの裾**は長靴の中に入れてみましょう。

3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、家の中に持ち込まないようにしましょう。



屋外活動後は、シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。



ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

4. 忌避剤の効果

マダニに対する忌避剤（虫よけ剤）が、2013年から新たに認可されました。現在は、ディート、イカリジンの2種類の有効成分の忌避剤が市販されています。

忌避剤の使用でマダニの付着数は減少しますが、マダニの付着を完全に防ぐわけではありません。忌避剤を過信せず、様々な防護手段と組み合わせて対策を取ってください。

